

JPA Japan Paraglider Association.

日本パラグライダー協会
2006 年度
JPA・ナショナル・リーグ
競技規定

JNL Ver. 1.40

 変更項目

JPA・ナショナル・リーグ（JNL） 2006

概要、大会開催規定、大会競技規定

目次	☞ 変更項目	
1 概要		5
1.1 FAI Sporting Cord		5
1.2 開催期間(JNL 年度)		5
1.3 参加資格		5
1.4 使用グライダー		5
1.5 JNL への登録方法	☞	5
1.6 JNL 対象大会へのエントリー方法		6
1.7 JPA 事務局からの連絡に関して	☞	6
1.8 JNL ランキング	☞	6
1.9 保険加入		6
1.10 JNL タスクの種類		6
1.11 JNL ランキングポイント計算式		7
1.12 リーグ表彰	☞	7
1.13 JNL リーグのエントリーフィー	☞	7
1.14 ゼッケン		7
2 大会開催規定		7
2.1 大会開催の申請		7
2.2 セレクション		7
2.3 大会期間		8
2.4 参加人数		8
2.5 ローカルルール		8
2.6 応募要綱		8
2.7 参加費用		8
2.8 ゼッケン番号		8
2.9 タスクコミッティー	☞	8
2.10 タスクコミッティーの役割		8
2.11 セーフティーコミッティーとその役割		8
2.12 大会競技委員長		9
2.13 ブリーフィング		9
2.13.1 ジェネラルブリーフィング		9
2.13.2 タスクブリーフィング		9

2.13.3 参加選手 の責任 	9
2.14 結果の掲示	9
2.15 不服申立て(コンプレイン)	9
2.16 ペナルティーおよび失格	10
2.17 抗議(プロテスト)	10
2.18 陪審員	10
2.19 抗議の処理	10
2.20 審査	10
2.20.1 処罰と決定事項	10
2.21 結果の送付	10
3 大会競技規定	10
3.1 使用機体の変更	10
3.2 ゲートオープン時刻とゲートクローズ時刻	10
3.3 再スタート	10
3.4 リフライト	10
3.5 タスクの種類	11
3.5.1 RACE TO GOAL (ゴールレース)	11
3.5.2 Elapse Time To Goal (エラップスタイムレース)	11
3.5.3 Free Distance	11
3.6 ペナルティー	11
3.7 ランディング報告時刻	11
3.8 帰着申告	11
3.9 アクシデントの救助	11
3.10 ペナルティーとボーナスポイント	11
3.11 大会、タスクの成立条件	11
3.11.1 ミニマムディスタンス	12
3.12 スコアリング	12
3.13 タスクブリーフィングボードへの記載事項(図1)	12
4. GPSを用いたタスク証明	12
4.1 スタート方法	12
4.2 ゴール、フィニッシュラインとランディングエリア	13
4.3 ターンポイント、セクター、GPSを用いたゴールライン	14
4.3.1 ターンポイント	14
4.3.2 セクター	14
4.3.3 ゴールラインとフィニッシュライン	14
4.4 タスクの証明	14

4.4.1	原則	14
4.4.2	有効な GPS データ	15
4.5	GPS ソフトウェア	15
4.6	GPS 判定の基準	15
4.7	ベストポジション(飛行中目標地点に最も近づいたポジション)	15
4.8	タスクキャンセルとタスクストップ	16
4.9	トラックログの義務	16
4.10	GPS の操作方法の習得義務	16
4.11	不正確な GPS トラックログのペナルティー	16

1 概要

日本パラグライダー協会（JPA）公認ナショナルリーグ（JNL）大会は、日本におけるパラグライダー競技人口の底辺拡大と競技の活性化を図る。世界で行われている PWCA をベースとしたスポーツ性を持ち世界を舞台として戦っていける選手の育成を目的とする。

1.1 FAI Sporting Cord

JPA・ナショナル・リーグ（JNL）の競技規定は、JPA 公認大会規定、FAI Sporting Cord の General section と Section7 を前提として設定されている。参加選手はその双方を良く理解した上で大会に参加すること。

1.2 開催期間（JNL 年度）

年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終了する。（これは大会の成績の出る日で管理する）。

1.3 参加資格

- ・ JPA パラグライダーエキスパートパイロット技能証、あるいは JHF パラグライダー X C パイロット技能証所持する者とする。
- ・ JPA パラグライダーパイロット会員証あるいは JHF フライヤー会員証が有効であること。

1.4 使用グライダー

- ・ DHV、AFNOR カテゴリーをパスしているか強度試験にパスしていること。
- ・ 競技用グライダーはグライダー使用誓約書に提出すること。

1.5 JNL への登録方法

- ・ JPA 会員登録を行っていること。
- ・ JNL 参加希望者は、JPA 競技事業部のホームページWEB上受付登録画面から必要事項を記入し、申し込みをする。登録受理された時点以降の大会からポイント有効となる。
- ・ 選手はWEB上の JPA 公認大会参加誓約書、グライダー使用誓約書をプリントアウトし、記入署名した後、シリーズ初戦の大会受付の際に提出すること。グライダー変更の場合は該当大会で主催者に提出する。年度初めに提出すれば、グライダー変更がない限り提出する必要は無い。
- ・ チーム登録
チーム登録は年間を通じてチーム名として登録し出来る。
・ TEAM: 3名1組でのチーム登録を受け付ける。（女子選手加入の場合は4名1組で参加できる）
チーム登録はチーム名とチームリーダーを登録する。
各大会毎に、チームリーダーがその大会に参加するメンバーを3名(女子選手加入の場合は4名)エントリーする。
大会によって出場選手を変更することが出来る。
出場大会でチーム選手を決定し個人エントリーとは別にチームエントリーを行う。
成績は参加した3名(女子選手加入の場合は4名)のうち上位2名の合計とする。

チーム戦参加にはJPAナショナルリーグ登録が必要です。

1.6 JNL 対象大会へのエントリー方法

- ・ 大会開始 4 週間前にエントリー頂いた選手に確認書ならびにエントリー送金案内を送らせていただきます。選手はこの時点でエントリーするかキャンセルするかを決定し、キャンセルする場合には速やかに事務局へ連絡すること。
- ・ エントリーする選手は大会開始 2 週間前までにエントリー費をお支払い下さい。2 週間前までにキャンセルの連絡がなかった選手はエントリーと判断し、エントリー費をお支払い頂きます。

1.7 JPA 事務局からの連絡に関して

- ・ JPA 事務局から選手への連絡は全て e-mail にて行う。(2006 年度から郵送による連絡は行わない) 確実に受信できる環境を整えること。(受信のトラブルに関するクレームは受け付けない)

1.8 JNL ランキング

ランキングに計上できる大会成績は、JPA 公認の JNL の大会で、JNL の成立条件を満たしたタスクのみを計上したポイントである。

参加者の JNL ランキングは、本人がその年度にポイントを獲得した大会の得点の高いほうから 3 タスク分を合計したポイントにより決まる。(大会の総合成績が 0 スコアの選手には順位をつけない。)

総合結果で同点が出た場合には、有効な 5 タスクの合計点の高い方が上位となる。それでも同点の場合には点数差が出るまでタスクを計上してゆく。

ランキングは次の 4 種類で分けられる。

ナショナルランキング	: 国内大会のみのランキングを計上する。
U-25 ランキング	: 25 歳以下の選手のみランキングを計上する。
U-50 ランキング	: 50 歳以上の選手のみランキングを計上する。
レディースランキング	: 女子選手のみランキングを計上する。
チームランキング	: 登録チームのランキングを計上する。

チームランキングは、登録したチームがその年度にポイントを獲得した大会の得点の多い方から 3 タスク分を合計したポイントにより決定する。

1.9 保険加入

- ・ 各自の責任で、傷害保険に加入しておくこと
- ・ JPA パラグライダーパイロット会員証あるいは JHF フライヤー会員証が有効であること。
- ・ 第三者損害賠償保険に加入しておくこと

1.10 JNL タスクの種類

- ・ RACE TO GOAL (ゴールレース)
- ・ ELAPSE TIME TO GOAL (エラップスタイトレース)
- ・ Free Distance (フリーディスタンス)

1.11 JNL ランキングポイント計算式

GAP システムならびに RACE2002 フォーミュラーを採用したタスクポイントを計上する。

1.12 リーグ表彰

年間ランキングから以下の表彰を行う。

ナショナルリーグ総合 1 位～3 位

レディースランキング 1 位～3 位

U25 ランキング 1 位～3 位

チームランキング 1 位～3 位

ナショナルリーグランキング 10 位までの選手は次年度の大会に優待選手として出場することが出来る。

(2006 年度の大会 2 日間の場合、¥5,000)

副賞として下記の賞金が授与される。

JNL 総合1位:5万円

JNL 女子1位:5万円

1.13 JNL リーグのエントリーフィー

JNL 登録費は年間¥2,000

チーム登録は年間¥2,000

1.14 ゼッケン

前年度 JNL ランキング 1～30 位までの選手はその順位を当該年度における JNL の大会のエントリー番号とする。それ以降は JNL 登録順の番号を当該年度の固定エントリー番号とする。JNL 未登録の選手のゼッケンは、区別しやすいように 500 番以降とする。

JOL および JAL 登録者はその番号を当該年度の固定エントリー番号とする。

2 大会開催規定

2.1 大会開催の申請

大会開催の申請には、所定の申請用紙、ローカルルール、エリア地図(5 万分の 1 で予定されているターンポイント、ゴールが記入されているもの)、予定されるタスク、およびその距離を明記した資料を、大会エントリー締め切り 2 ヶ月前までに JPA 事務局にファイル (Word, Excel, Access) 提出すること。

2.2 セレクション

参加申込者の受理は JNL 登録選手を優先(実際のエントリー希望者の合計がエントリー枠を超えなかった場合にのみ、空いた分を非 JNL 登録者に開放)する。(ただし JNL に登録していない外国人選手は除く。またカテゴリー 2 の大会を除き、そのような外国人選手は別枠と考え、大会のエントリー受け入れ人数に含まれないものとする)参加申し込み者のうち、JNL の登録選手の合計が大会のエントリー受け入れ人数を超えた場合は、前年度ナショナルランキング

30位以内を優先とし残りを今年度登録者でリーグ登録順かつエントリー申込順により選出、または、前年度ナショナルランキング30位以内を優先とし残りを主催者がローカルルールにより選出する。

2.3 大会期間

大会期間は連続した日とする。

2.4 参加人数

大会の選手受け入れ最小人数は30人とする。また受け入れ人数の15%（小数点以下を切り上げる）は女子の優先枠とする。

2.5 ローカルルール

ローカルルールはJPA競技事業部の承認を得る必要がある。ローカルルールは参加選手に事前に広報される。

2.6 応募要綱

各大会主催者が提示する応募要綱に準ずる。

2.7 参加費用

参加費用では次の事柄がまかなわれる

- ・ 幹線道路からの回収
- ・ ターンポイントのGPSコーディネートダウンロード（飛行の証明にGPSを用いる場合）
- ・ GPSチェックイン（飛行の証明にGPSを用いる場合）
- ・ エリアマップとローカルルール

2.8 ゼッケン番号

- ・ ゼッケン番号は基本的に黒を用い、一文字縦60cm横30cmのデジタル文字とする。
- ・ ゼッケンは機体下面の中央、前方に進行方向を上部とし、わかりやすく貼られること。
- ・ 大会競技委員長はゼッケンに関する色その他の変更事項に許可を与えることができる。

2.9 タスクコミッティー

タスクコミッティーとは、地元選手の中から1名、参加選手の中から1名、大会競技委員長の計3名で構成される。

タスクコミッティーの選出は、各大会参加選手がエントリー時に参加名簿の中から1名を選出する（自薦、他薦を問わない）。

2.10 タスクコミッティーの役割

- ・ その日の気象予報に応じた、適切な飛行空域と、テイクオフエリアを決める。
- ・ その日のタスクを選び出す。

2.11 セーフティーコミッティーとその役割

セーフティーコミッティーは、タスクコミッティーを含み地元選手から3名以上で構成される。セーフティーコミッティーはテイクオフ周辺を含めて飛行コース上が危険なコンディションになったときに、大会競技委員長にそれを連絡する。選考されたセーフティーコミッティー

は大会競技委員長からの問い合わせに対して客観的な情報を大会競技委員長に知らせる。大会競技委員長はその情報を基に競技を続行するかどうかを決めなければならない。ただし競技を続行するかどうかの最終的な判断は飛行中のパイロット個人が下す。

また、タスクコミッティーにより決められた当日のタスク内容が安全に行えるかどうかを確認する。

2.12 大会競技委員長

大会競技委員長は、エリアに精通した人たちからの情報(空中、地上)と意見を組み込みその日に合ったタスク案を提示することができる。

大会競技委員長は、飛行中のセイフティーコミッティーに状況の変化の確認をすることができる。

2.13 ブリーフィング

ブリーフィングにはジェネラルブリーフィングとタスクブリーフィングとがある。

2.13.1 ジェネラルブリーフィング

参加選手は、大会主催者が行うジェネラルブリーフィングに参加しなければならない。その重要なインフォメーションは、公式掲示板に掲示される。

2.13.2 タスクブリーフィング

- ・ タスクブリーフィングは気象情報、エリア地図、パイロン写真を加味してテイクオフエリア付近で、参加選手全員に対して行われる。
- ・ 競技内容は漏れなくタスクボードに記載される。
- ・ ブリーフィング終了から、ウインドオープンまでは最低 15 分間の余裕を持たせる。

2.13.3 参加選手の責任

参加選手全員はブリーフィングの内容、タスクボードの記載事項に関して正しく理解しなければならない。また、救助用具の設置位置を把握し緊急時に速やかに行動できるように備えなければならない。

2.14 結果の掲示

- ・ 結果の仮発表は、可能な限り早く掲示する。
- ・ 仮発表後 1 時間以内にコンプレインの受付を行う。
- ・ すべてのコンプレイン、抗議を受け付け、結果訂正後、大会競技委員長の確認を受け結果の正式発表とする。

2.15 不服申立て(コンプレイン)

コンプレインは訂正してもらうことが目的であり、抗議(プロテスト)を行うもではない。競技中何かに不満を持った場合、先ず担当役員にその処置につき援助を依頼する。その処置に不満がある場合、選手は競技委員長又はその指定する役員にコンプレインを行うことができる。このコンプレインは不満があった場合直ちに行い、迅速に処理しなければならない。

2.16 ペナルティーおよび失格

競技委員長は、競技者が競技規則に違反した場合、違反者にペナルティーを科することができる。

ペナルティーの程度

- a) 重大な違反にはその日のタスクの0スコアが科せられる。
- b) スポーツ精神に反する行為には、大会失格となる。

ペナルティーは、当該ペナルティーが科せられた日の結果表に記載される。

2.17 抗議(プロテスト)

- ・ 2.15 2.16に関する処置に対して抗議がある場合は、競技開始前に行わなくてはならない。
- ・ 抗議は、指定された時間内に書面で大会競技委員長に提出しなければならない。
- ・ 供託金がある場合は抗議が認められた場合は返却し、認められなかった場合は没収される。

2.18 陪審員

陪審員は、大会実行委員長、大会競技委員長、タスクコミッティー(選手2名のうち1名)からなる。

2.19 抗議の処理

大会競技委員長は、いかなる抗議も遅延なく陪審員に通知しなければならない。

2.20 審査

陪審はいかなる抗議についても、該当するFAI規則および、競技規則に基づいて、双方の意見を聴取する。

2.20.1 処罰と決定事項

大会競技委員長は、結果および審査の概要を、公表しなければならない。

2.21 結果の送付

大会の結果レポートは、大会において提出された正式抗議と、それに対する処置を付記して、大会終了後3日以内にJPAに提出する。

3 大会競技規定

3.1 使用機体の変更

使用機体を大会開始後に変更することはできない。万が一使用機体が破損した場合は、大会競技委員長の許可を得て変更することができる。

3.2 ゲートオープン時刻とゲートクローズ時刻

ゲートの開いている時間帯は物理的に参加選手全員がテイクオフできるだけの長さで設定する。

3.3 再スタート

テイクオフ直後に、ラインの絡みその他飛行に支障をきたすことが起きた場合は、大会競技委員長の許可を得て再スタートができる。

3.4 リフライト

リフライトを許可する場合には、最後のフライトが得点対象となる。ただし時間計測はエラップスタイムレースの場合はデパーチャークローズタイムまで遡る。

3.5 タスクの種類

3.5.1 RACE TO GOAL(ゴールレース)

目的はゴールを最初にクリアーすること。スタート時刻は全ての選手に対して同一である。スタート方法は地上又は空中からの一斉スタートを用いる。

3.5.2 Elapse Time To Goal (エラップスタイムレース)

決められたコースを、最初にスタートして最短時間で飛行し最初にゴールしたものを1位とすることを目的とする。スタートは地上からの場合はウィンドウオープン中選手の自由とする。空中スタートする場合は、デパーチャーオープンタイム以降に選手が最後にデパーチャーポイントを通じたときとなる。ファーストターンポイント通過後、デパーチャーポイントを通じたとしても認められない。

リフライト等でデパーチャークローズタイム以降にデパーチャーポイントを通じたとしてもデパーチャークローズタイムがスタートタイムとなる。

3.5.3 Free Distance

テイクオフから最も遠くへフライトしたものを1位とすることを目的とする。

3.6 ペナルティー

- ・ 雲中飛行を行った選手は、そのタスク0スコアとする。
- ・ ランディング報告義務違反は、そのタスク0スコアとする。
- ・ 帰着申告義務違反は、そのタスク0スコアとする。
- ・ 旋回方向義務違反は、そのタスク0スコアとする。

3.7 ランディング報告時刻

ランディング報告時刻は、安全上の理由からフィニッシュラインクローズ時刻より後に設けられる。参加選手は、ランディング後可能な限り早く、安全に関する報告をしなければならない。報告には携帯電話などを用い、主催者が必要性の無い捜索を行わないように配慮しなければならない。

3.8 帰着申告

帰着申告は、大会参加の意思を示した選手全員が行わなければならない。

3.9 アクシデントの救助

アクシデントの救助に協力した選手に与えられるボーナスポイントは、大会実行委員長が算定し、陪審員が承認する。

3.10 ペナルティーとボーナスポイント

ペナルティーポイントやボーナスポイントは、上記以外のものを含め大会の成績に加減される。

3.11 大会、タスクの成立条件

全参加選手がテイクオフ出来る時間(例:参加選手人数×1分)が空いていたとき、ゲートオープン時間内に棄権を除く全選手がテイクオフして、かつミニマム距離を一人以上クリアーし

た時点で成立する。

3.11.1 ミニマムディスタンス

ミニマムディスタンスは5 km で設定する。

3.12 スコアリング

計算式は、RACE2002 (GAP2000) のスコアリングフォーミュラーを採用する。

(パラメーターは全大会統一のものとする。)

パラメーター：ノミナル・ディスタンス：20 km

ノミナル・タイム：1 H

ノミナル・ゴール：10%

ミニマムディスタンス：5 km

3.13 タスクブリーフィングボードへの記載事項 (図1)

- a) 一般 : 日付、大会名
- b) タスク内容 : タスクの種類、タスクディスタンス、ミニマムディスタンス、フィニッシュラインクローズ時刻、ゲートオープン時刻、ゲートクローズ時刻、ランディング報告時刻、帰着申告時刻
- c) 安全に関する情報 : 帰着申告用電話番号、大会本部の電話番号、指定サーマルの旋回方向

4. GPS を用いたタスク証明

- ・ 飛行の証明は全て GPS のトラックログで判定する。
- ・ 参加選手は少なくともひとつの GPS を装備すること (使用できる機種は主催者の指定しているもの)
- ・ 参加選手は、GPS を正しいパラメーターにセットすること。
- ・ 参加選手は、帰着申告の際その日の飛行のトラックログを GPS からダウンロードすること。

4.1 スタート方法

GPS でのスタートは、鉛直方向のシリンダーで作られるラインをクロスすることで確認される。地上での目視物は利用しない。


4 種類の方法が用いられる。

- a) 個々の選手が、ゲートオープン時間中好きなときにテイクオフする。

正確なスタート時間は、テイクオフマーシャルがパイロットのテイクオフした時間を計測するか、GPS スタートラインをパイロットがクロスした時間を用いた計測が可能である。その場合の GPS スタートラインはパイロットがテイクオフすれば必ずクロスする位置に設定される。この場合選手はスタートラインをクロスする前に少なくとも4ポイントのトラックログを残しておく必要がある。

- b) 選手個々に空中からスタートラインをクロスする。

この場合指定されたスタートラインを最後にクロスした時間が計測される。この場合スタートセクターは次のターンポイントのビッグシリンダー(例えば、テイクオフは TP1 から 10km 地点にありスタートの計測は TP1 の 9km シリンダーに最後に入った時となる)であり、セクターにクロスしてに入った時点から計測が始まる。あるいはスタートセクターは TP の 400m スモールシリンダーであり、時間の計測はセクターを最後に出た時から始まる。

- c) 決められたスタートオープニングタイムに時間計測が始まり、パイロットはそれ以降にスタートラインをクロスしていかなければならない。スタートセクターは個々にスタートする場合と同様な、ビッグシリンダー、又はスモールシリンダーを採用する。
- d) 決められたスタートオープニングタイムから時間計測が始まり、パイロットはそれ以降にテイクオフしていく。スタートの方法は、タスクブリーフィングで細かく発表される。
- e) クロックタイムスタート(追加) 

空中でのスタートタイムがタスクブリーフィングで複数回設定される。パイロットは空中で自分の好きなスタートタイムを選択してスタートを切ることが出来る。

レースタスクで設定された場合は、より良いスタートの条件下を選択してスタートすることが出来る

これは個々でスタートするエラップスタイムレースと集団でスタートするレースの中間的なスタートだと考えて下さい。

例) 12:00 最初スタート。10分後にクロックスタートをすると・・・

当然 12:00 以前にスタートしたらフライングで0点。

12:00 以降、12:10 未満のスタートした選手のスタートタイムは 12:00

12:10 以降、12:20 未満のスタートした選手のスタートタイムは 12:10

以下同様にスタートする。

このスタートのメリットは、パイロット自身がスタートタイムを選べることと集団でレースが出来ることです。

デパーチャーボーナスは、当然最初にスタートしたパイロットが高得点です。

4.2 ゴール、フィニッシュラインとランディングエリア

- ・ ゴールは仮想(GPS 上)セクターで、最後の TP からゴールを結ぶ直線と直角に交わる、ゴールを中心にした 400m の直線のことを言う。
- ・ フィニッシュラインを引く場合は、限りなくゴール(GPS 上)の仮想セクターに近く引かなければならない。この場合も仮想のゴールセクターを正式なゴールセクターとする。
- ・ フィニッシュラインが指定された場合には、指定範囲内を空中で通過しなければならない。
- ・ フィニッシュラインは長さ 50m 幅 1m の空中から目視しやすいものを使用する。
- ・ ランディングゾーンを設ける。
- ・ パッキングゾーンを設ける。

4.2.1 フィニッシュラインクローズ時刻

ゴール計測する最終時刻は、タスクブリーフィングで発表され、タスクボードに掲示され

る。フィニッシュラインクローズ時刻後のゴールにはタイム得点は与えられない。

4.3 ターンポイント、セクター、GPS を用いたゴールライン

4.3.1 ターンポイント

ターンポイントは、主催者から提供される GPS コーディネート(座標)とする。ターンポイントリストは大会前に主催者のコンピューターから各選手にダウンロードされる。主催者がターンポイントを大会期間中に追加あるいは変更する場合は、タスクブリーフィングで告知される。ターンポイントは基本的には地上にある、目標物を目安として決められる。使用するマップデータは WGS84 が採用される。ポジションフォーマットは原則的には UTM を使用する。

4.3.2 セクター

ターンポイントのセクターは、主催者が指定したターンポイントのコーディネートを中心としたシリンダーとする。シリンダーはスタートするときに使われるが、セクターはその方法によってシリンダーの中あるいはシリンダーの外の場合がある。シリンダーの大きさは、タスクを決定するときに決められる。

(基本例) 使用できるシリンダー半径の規定は 400m 以下とする。

- ・ ターンポイントは半径 400m のシリンダー
- ・ スタートポイントは半径 400m のシリンダー
- ・ ビッグシリンダーによるスタート方法の場合は、そのつどサイズが決められる。

4.3.3 ゴールラインとフィニッシュライン

フィニッシュラインを設ける場合と設けない場合がある。

ゴールラインの定義 : GPS でのゴールの座標を中心とした、最終ターンポイントとゴールを結ぶ直線と垂直方向の、400m のラインとする。パイロットはこのゴールラインをクロスしなければならない。

フィニッシュラインの定義 : 地上に引かれた目視できるラインとする。

ゴールの手順 : 選手は GPS 上のゴールラインをクロスしなければならない、タイム計測は GPS で記録されたデータを採用する。フィニッシュラインが設けられたときは、フィニッシュラインをクロスするか少なくともその上に着地しなければならない。ただしタイム計測は、RACE TO GOAL の場合のみトップ 10 人だけをゴールマーシャルが計測する(ただしゴールマーシャルが存在する場合)。

4.4 タスクの証明

4.4.1 原則

タスク証明のデータソースは各選手が使用した一つの GPS のトロックログに限られる。二つ以上の GPS ログを繋げてひとつとすることはできない。

ファイルや、外部から GPS にダウンロードしたもの、その他のデータソースはタスク証

明のデータソースとしては使用されない。指定メーカーのデータロガーのデータもタスク証明のデータソースとして使用されるが、データロガーのデータソースの有効性を確認するために、そのデータロガーに接続していた GPS のトラックログを求めることがある。

4.4.2 有効な GPS データ

有効なトラックログとは

- ・ トラックログは少なくとも 2 分間、5 ポイント以上の連続したものをスタートセクターの前後に残さなければならない。
- ・ トラックログは少なくとも 2 分間、5 ポイント以上の連続したものをターンポイントのセクターの前後に残さなければならない。
- ・ トラックログは時間のデータが残っている有効なものでなければならない。
- ・ トラックログは高度のデータが残っている有効なものでなければならない。(2005 年度以降) (ベストポジション、高度制限、雲中飛行の失格判定の参考とするため)
- ・ 連続したトラックログは 20 秒以下の間隔の連続したものが望ましい。

4.5 GPS ソフトウェア

GPS のデータのコンピューターへの取りこみは、JPA 競技事業部で認められたソフトウェアで行われる。そのソフトウェアでは、選手の飛行位置とその時刻を判定する。スタート時刻、ゴール時刻は、その前後の位置にある連続したトラックログから算出される。

このソフトウェアでは次の事項が判定される

- ・ スタートの時刻
- ・ シリンダーセクターをクロスした時刻
- ・ ランディング地点
- ・ ゴール到着時刻
- ・ 飛行中のベストポジションの判断(ランディング地点よりも目的地に近い座標をベストポジションとする)
- ・ 決められた時刻の飛行位置の特定(飛行中にタスクストップがかかった場合)

4.6 GPS 判定の基準

スタートラインをクロスした証明、ターンポイントセクターに入った証明は次に挙げるようなトラックログが残っていなければならない。

- ・ 通常のシリンダーセクターの中に残るポジション
- ・ スタートラインをはさんだ連続した 2 個のポジション
- ・ MARK されたポジションは証明には使わない

4.7 ベストポジション(飛行中目標地点に最も近づいたポジション)

選手の飛行距離は、ベストポジション又は、ランディングした地点で計測される。ランディングした選手は MARK ENTER ファンクションで、ランディング地点を申告しなければならない。ベストポジションがランディングポジションより有利な場合はベストポジションによって飛行距離が計測される。ランリポートでは MARK ENTER ポジションを申告する。

4.8 タスクキャンセルとタスクストップ

競技開始後に、天候が急変した場合に、大会競技委員長はタスクキャンセルすることができる。
また、競技の途中でタスクをストップすることができる。この場合、タスクストップした時間までの GPS のトラックログにて成績を出す。

4.9 トラックログの義務

飛行空域に制限がある場合は、GPS のトラックログでその空域への侵入を判断する。その場合はその日の飛行全体を連続されたトラックログで記録する義務がある。

4.10 GPS の操作方法の習得義務

- ・パイロットはバックアップ用に複数の GPS やデータロガーを同じに使用しても良い。
- ・一連のフライトは一つの GPS 又はデータロガーに記録されていなければならない。
- ・一連のフライトが複数の GPS やデータロガーにまたがってはいけない。
- ・パイロットは GPS とデータロガーを正しいパラメーターにセットしなければならない。
- ・パイロットは前のタスクのデータを成績が確定するまで消去してはならない。
- ・GPS が正しく作動しなかった場合はパイロットの責任である。
- ・トラックログが取れなかった場合はパイロットの責任である。
- ・提出したトラックログで正しく判定されなかった場合は、別のトラックログを提出することができる。ただし、そのトラックログを記録した GPS やデータロガーの製造シリアル番号は事前に大会主催者に届け出たものでなければならない。

4.11 不正確な GPS トラックログのペナルティー

スタートポイントのミス	0 スコア
連続したトラックログが要求されていて、トラックログが連続していない場合	0 スコア
ターンポイントのミス	ベストポジションを取り、距離得点が与えられる。
ランディング後に GPS のトラックログを記録しつつ移動するなどの行為によりベストポジションの検出が不可能となった場合	ランディング直前のターンポイントまでの距離がフライト距離となる。